



▲外出して帰宅するたびに木の香りを実感しています。北海道の羽田さん(左)と西條さん。



▲外観はごくシンプル。窓はアルミと木の複合フレームにトリプルガラスの、高断熱サッシの回転窓。



▲和室の畳は、コルクを炭化させた断熱材、日干した桐むら、それに備長シートを合わせた畳床を、有機栽培の国産い草で仕上げた手へ。

道南地方で製材された杉、名づけて「道南杉」をふんだんに使った住宅が、札幌市南区にある。「北海道の木で家建てる」をテーマに設計にあたった西條さんは、この家で、道南杉のほか、道北産の珪藻土や噴火湾で獲れた、はたての貝殻をはじめ、全国から集めた健康素材を豊富に使用している。施主の羽田さんはご主人の定年を機に、20年前

から確保していたという土地に新築を計画。「体が弱かった子どものため、もともと食べ物については自然素材にこだわっていました。せうかくなら住宅自体も自然素材で建てたほうがいいと思いついた。数社検討した結果、建材への私たちのこだわりをより満たしてくれる西條さんに依頼を決めたのです」と奥さん。

羽田さんたちが出した要望は以下の3点だった。(1)外観の見栄えにこだわる必要はない。(2)住んでいて、健康で気持ちが良い家であること。(3)化学物質はなるべく使わないでほしい。そのうえで2つのプランを提示してもらい、「老後、1階だけでも生活できそうなほうを選びました」という。

「道南杉の家」の試みと「エコ住宅」の理想

素材の使い手がめざすもの

本誌連載「素材自店」でもお馴染みの、エコロジー建築工房・西條インテリアデザインの店主、西條正幸さん。今回は、その西條さんが手がけた「道南杉の家」を訪ね、そこでの素材使いとともに、西條さんが目標とするエコ住宅についてうかがった。

年輪が見て取れる太い杉の梁は、迫力満点。吹き抜けのアクセントに。



光がさんさんと降りそそぐ居間。
ペットボトルを再利用しチップ状にしたものを断熱材に利用するなど、目に見えない部分にもこだわりがある。

店舗兼自宅の設計をきっかけに、シックハウス問題に興味を抱く

もともと店舗デザインを主体に手がけていた西條さんが、エコロジーを重視した住宅に関心を持ったのは、今から6年前のこと。1階を事務所、2〜3階を自宅とする建物を設計したのがきっかけだった。

「店舗デザインを手がけていた当時から、「天然素材を使った、飽きのこない店にしよう」という「本物志向」を持ってはいました。しかし人間というのは、実際に自分の身に降りかかってみないと気づかないことがたくさんある。自社店舗兼自宅の新築にあたり、住宅としての機能

性やシックハウスについて、真剣に考えるようになったんです」。

店舗デザインに求められがちな「かっこ良さ」よりも、将来、住宅自体を廃棄するときの環境への負荷の軽減やシックハウスについて興味を持ち、東京などですでに取り組んでいた人たちに会って話を聞き、情報を収集。また「自分はいくらまでも、建築家ではなくデザイナーだ」との強い意識から、デザイン的な要素も含め素材に注目。各地から自然素材を集めて、自宅に活用した。

それ以降、「ブレインな素材を生かして、健康に住める家をつくること」は、住宅設計の大切なポリシーのひとつになったという。

▼居室部分は床や天井すべてに杉を使った。



▲亜麻の植物油を主成分とした天然塗料を、木部すべてに2度塗りしている。木の表面を強くし、撥水性と呼吸性を保つのが特徴。

「道南杉の家」で使われた主な素材

- | | | |
|---------------|-----------------------|-----------------|
| ① 道南杉(柱材) | ⑥ 無添加の天然壁紙用り | ⑪ 道南杉の羽目板(白身) |
| ② ヒバ(土台) | ⑦ 蜜ロウ仕上げのコルクタイル | ⑫ 道南杉フローリング(赤身) |
| ③ 亜麻仁油入り天然塗料 | ⑧ 土佐和紙壁紙 | ⑬ ほたて漆喰 |
| ④ 木酢燻液(防腐剤) | ⑨ 炭化コルク入り畳床 | ⑭ 浴室床用コルクタイル |
| ⑤ ペットボトル再生断熱材 | ⑩ 下地用の杉小幅板(合板を使わない工夫) | |

